

# 大麦栽培こよみ（肥効調節型肥料タイプ）

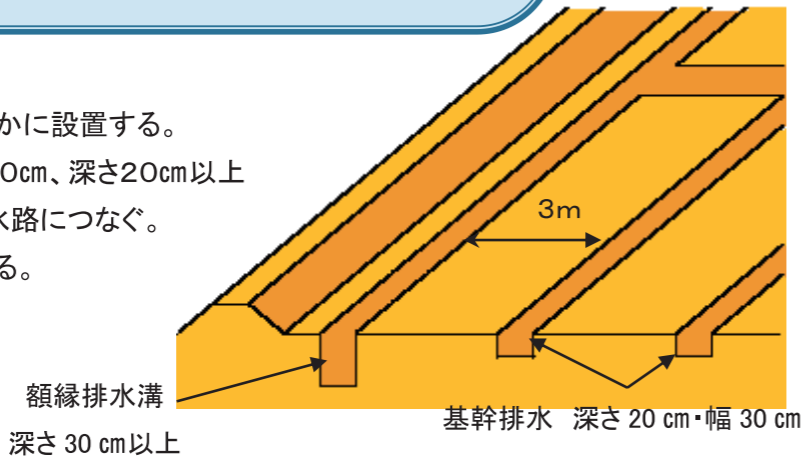
## <29年産大麦の重点ポイント>

排水対策の徹底と適期の播種作業による**初期生育の確保**

- ① 稲刈り直後の排水対策の徹底と碎土率の向上。
- ② 石灰質資材を施用し、酸度矯正による土づくり。
- ③ 播種時期に応じた適正播種量の厳守。
- ④ 播種後の速やかな除草剤散布。
- ⑤ 播種作業は10月上旬頃を中心を実施。

### 『排水対策』

- ・額縁排水溝は水稻収穫後速やかに設置する。
- ・排水作業の前に3m間隔に幅30cm、深さ20cm以上の溝を掘り、額縁排水溝を排水路につなぐ。
- ・水吐尻は板をはずし、掘り下げる。
- ・暗渠排水のフタは外しておく。
- ・水口をしっかりと止める。



★排水が良くないほ場では、うね幅を狭め(2m)にしましょう

排水溝は随時手直しを行い、降雨や雪解け水の排水に努めましょう

### 収量構成と品種目標

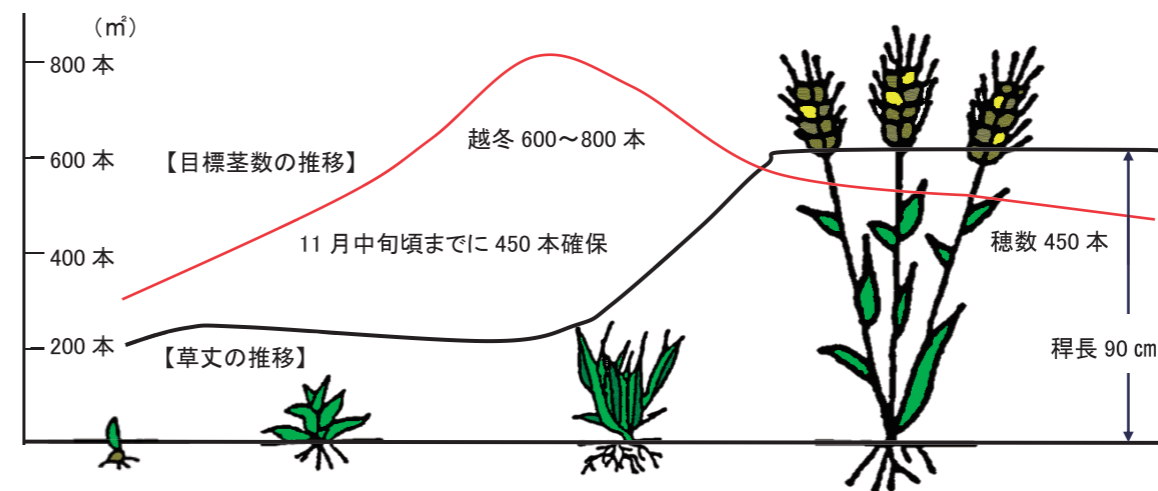
収量	350 kg/10a
穂数	450 本/m <sup>2</sup>
2.3 mm以上	85%
千粒重	35g
容積重	690g/l 以上
硝子率	40%以下

### 『目標苗立本数と播種量の目安』

播種期	目標苗立数 (本/m <sup>2</sup> )	播種量の目安(kg/10a)	
		ドリル播	表面散播
9月26日以降	140	6.0	肥効調節型肥料 では行わない
10月上旬	150	6.5	
10月中旬	200	8.5	

### 『施肥基準』必ず石灰質資材を100kg/10a以上散布

肥料名	基肥量 (10aあたり)	追肥量(10aあたり)		
		11月上旬 (播種1ヶ月)	消雪直後 (2~3月)	止葉展開期 (4月上旬頃)
LP大麦 48号	側条 40~45 kg	追肥不要		



### 『種子消毒』

農薬名	ベンレートT水和剤
使用方法	種子重量の0.5%均一に粉衣 ※種子 10 kgに水 200mlを加え 薬剤を 50g混和

### 『赤かび病等の防除』

〈1回目〉穂揃期	
・トップジンM粉剤DL	4kg/10a
・トップジンM水和剤	1,000倍 1500l/10a (薬剤量 150g 水 1500l)
〈2回目〉1回目から1週間後	
・ワークアップ粉剤	3kg/10a
・シルバキュアフロアブル	2,000倍 1500l/10a (薬剤量 75g 水 1500l)

栽培管理ポイント	9月中~下旬	10月上旬	11~12月	1~2月	3月	4月	5月	6月上旬
		★耕起前の排水対策はしっかりと	★適正播種量で苗立確保	★排水溝の手直しを		★止葉展開期の生育確認		★基本防除と適期刈取りで高品質麦に仕上げる

**排水の徹底**

水稲収穫後に速やかに排水対策を実施する

スクリーナー等による額縁排水の設置

サブソイラーによる心土破碎と弾丸暗渠の設置

**土壌pHの矯正**

耕起前に石灰質資材 100 kg / 10 a 以上を施用する

土壌 pH 6 以上を目標

**種子消毒**

種子消毒剤にて粉衣

種子消毒を徹底し病害の発生を防ぐ

排水溝を随時手直しする

← 一連の作業を1日で行う →

除草剤名	使用時期	使用量	適用雑草
トリアナサイト <sup>®</sup> 粒剤 2.5	播種発芽前 (雑草発生前)	4~5 kg/10a	1年生雑草 (※ツクサ、カヤツリグサ、キク、 アブラナ科除く)
トリアナサイト <sup>®</sup> 乳剤		200~300ml (水 1000l)	

刈取期の目安

出穂後 40 ~ 45 日頃

子実水分 30% 以下時

乾燥仕上げ水分は 13.0%

**耕起・碎土・播種・作溝・施肥**

土が乾いた状態で耕起し、碎土率の向上を図る

**草の多いほ場では除草剤を散布する**

播種時期に合わせて適正量播種する

必ず側条にて施肥を行う

播種深度 3 cm 程度

**赤かび病等の防除**

1回目(穂揃期)

2回目(1回目から1週間後)

必要な追肥は行わない

止葉展開期(出穂12日前)

**刈取・調整**

収穫前に、ほ場内のカラスノエンドウ等を除去する

コンバインの清掃を徹底し、異種穀粒の混入を防止する